令和３年度第１回広島市公民館運営審議会 会議要旨

日時	令和３年７月30日(金)　午前10時00分～11時30分		
場所	広島市役所　本庁舎14階　第７会議室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	０人
出席者	**委員**　：新川恵美、福原剛、上谷信夫、神出恭子、高田登代子、田頭一徳、大坪眞理子、久井英輔、山川肖美、脇谷孔一 **事務局**：橋場市民局次長、田渕生涯学習課長、平田課長補佐、高木主査、松本主事 **地域起こし推進課公民館担当課長**（区調整公民館長）：河本課長（東区）、平野課長（南区）、大嶋課長（西区）、金子課長（安佐北区）、冨永課長（佐伯区） **(公財)広島市文化財団**：岩田次長、(温品公民館)重田館長、篠崎公民館専門員		
資料名	・令和３年度第１回広島市公民館運営審議会次第 ・資料１　令和２年度事業報告について ・資料２　令和３年度事業計画について ・資料３　広島市公民館の取組について　（事例紹介）「災害に強いまちづくり　公民館と防災士を中心とした『地域防災事業』について」（温品公民館） ・参考資料１　広島市公民館学習会の実施方針（体系） ・参考資料２　コロナ禍における公民館活動及び運営について ・参考資料３　広島市公民館運営審議会関係法令等（抜粋） ・参考資料４　広島市公民館運営審議会委員名簿		

議事（会議要旨）

１　開会

２　議事

(1)　令和２年度事業報告について

〈説明〉

資料１に沿って説明（田渕生涯学習課長）

(2)　令和３年度事業計画について

〈説明〉

資料２に沿って説明（田渕生涯学習課長）

〈質疑等〉

久井委員

コロナ禍のため定員を半数にして事業を実施しているとのことだが、何か問題は起きているのか。

平野南区地域起こし推進課公民館担当課長

南区では１回の講座を２回に分けて実施するなどして、これまでの定員を確保できるように努めている。

久井委員

コロナ禍で市民の学習ニーズにも多少変化はあると思うが潜在的には変わらないように思う。その場合、定員を減らしたり講座時間を減らすことによって市民の不満も生じているのか、そういったことはないのか伺いたい。

平野南区地域起こし推進課公民館担当課長

コロナ以前であれば事前申し込み不要で誰でも受講できた講座が、コロナ禍により抽選式になり抽選から漏れる方もいらっしゃる。そうした場合は、抽選漏れになった方に対して別の講座を立ち上げるなど、市民の学習ニーズに応えることができるよう工夫しながら講座を行っている。

脇谷委員

コロナ禍における公民館活動ということで、インターネットを活用した取組が考えられると思う。公民館でのオンライン講座の実施状況や、公民館を拠点として活動するグループに対してオンライン活動のための技術支援をされているのか教えてほしい。

また、令和 3 年度の事業計画は前年度ベースということだが、これは令和 2 年度の事業計画をベースとしているのか。というのも、コロナ禍を前提とした事業展開なのか、コロナ禍が終息したことを見据えての事業展開なのか。令和 2 年度ベースだと縮減した事業をそのまま実施するということで違和感を覚える。

岩田次長（広島市文化財団）

ひと・まちネットワーク部では「リモコひろしま（リモート公民館ひろしま研究会）」という職員の任意団体が、財団の研究補助や県公民館連合会の補助を受けてマイクやカメラの機材を整備し、オンライン活動の研究を行っている。オンライン事業の内容としては、似島と湯来を繋いで似島の方に湯来の紹介をしたり、広島城からオンライン配信をして公民館や自宅で受講できるようにしたり、又は公民館まつりの代わりに各種グループの発表会をオンラインで配信したりしている。

また、公民館を拠点として活動するグループに対して、アプリの使用方法を指導、支援した公民館も若干数ある。

脇谷委員

オンライン活動の工夫をされている公民館も多数あるようなので、活動報告の際には共有してほしい。また、今後の状況を見据えればまだ工夫はできると思う。この後の発表にあるような温品公民館の災害に関することは全市共通のテーマだと思うので、例えばリモートで全公民館において視聴し共有できるような仕掛けをつくるなど、新たな公民館活動の展開に向けて、コロナ禍による変化を将来に繋げていくということで工夫をお願いしたいと思う。

田渕生涯学習課長

脇谷委員のご質問の 2 点目について、令和 3 年度の事業計画は令和 2 年度の事業計画をベースにしており、コロナの影響はそこまでないものとして作成したものである。

山川委員長

コロナ後を見据えた時には諸々変化していく必要があると思うが、現状の公民館学習会の実施方針や評価指標（新規参加者数、参加者数、件数、満足度）だけで評価しようとすると、コロナ禍での公民館の工夫やコロナ後に公民館の目指すところが見えないと強く感じている。また、広島市では昨年度総合計画が改定されており、上位計画が変わった中で公民館の計画が新しくなっているのかどうか。

橋場市民局次長

現時点では公民館の運営等については変更していないが、総合計画も改定され、世の中もウィズコロナで変わることを前提として、委員長のご意見も踏まえながら今後どういったことができるか検討させていただきたい。

山川委員長

今はなかなか活動もしにくい混沌とした時期だと思うが、そういった時期だからこそ計画の練り直しをゆっくりできる時期だと思う。人数で評価すると達成しない。他の市町村においてもコロナ禍、コロナ後を見据えた計画や評価指標の練り直しを行っているので、ぜひ広島市においても、安心安全を前提として、公民館職員や公民館利用者等も含んで、今後の公民館のあり方について協議する場あるいは計画（方針）を更新・共有する場の設定について検討をお願いしたい。

(3)　広島市公民館の取組について

〈説明〉

参考資料１について説明（田渕生涯学習課長）

【事例発表】地域資源に関する学習などを通じた取組について（温品公民館）

「災害に強いまちづくり　公民館と防災士を中心とした『地域防災事業』について」

パワーポイントを使って事例発表（温品公民館　重田館長）

〈質疑等〉

神出委員

命の袋の財源はどこからでているのか。また、何世帯ぐらいに配布しているのか。

重田温品公民館長

温品学区連合町内会が主体となって申請した広島市の「まるごと元気地域コミュニティ活性化補助金」を主な財源としている。そのほか、連合町内会や自主防災連合会からも財源をいただいて命の袋を作成している。防災士が１袋 200 円で手作りしてくれている。

現在はイベントを通して配布しており、今後は町内会ごとに世帯へ配布することを目標にしている。

脇谷委員

命の袋は非常に役立つと思う。これを作成・配布するだけではなく、ホームページで作り方を公表し、データをダウンロードできるようにするなど、自主的に防災活動ができるような仕掛けを発信していただくと更によいかと思う。また他の公民館にも共有していってほしい。

公民館としてできることの限界もあると思うが、地域団体が主体となる場合であっても公民館として引き続きサポートしていただいて、公民館事業だけで終わりにならないように、地域住民が自主的に課題解決をできるようにその後押しをお願いしたい。

山川委員長

学校は防災学習に取り組まれていると思うが、公民館との連携可能性や学校と公民館で一緒にできればと思うことがあればお聞かせいただきたい。

新川委員

前任校の矢野中学校で平成 30 年 7 月豪雨災害を経験し、学校も 1 か月間休校した。平成 26 年 8 月豪雨の際に安佐南区が大変な状況になったにも関わらず、誰しも自分事に捉えておらず、温品公民館の命の袋のような取組ができていなかった。連絡先が分からない、携帯電話も流されているという状況だったので、生徒 800 人の安否確認に 3 日間かかった。その反省を生かして、昨年度から中学校長会としてどういう地域にあっても連絡先を把握し防災の意識を高めようという取り組みを始めている。平成 30 年豪雨災害の際には、避難先の小学校が浸水してしまい、公民館の 1 階も流されるという状況だったので、自分が住んでいる地域の公民館、避難所、学校の連携が大切だと強く感じている。地域の繋がりの核となるのは公民館だと思うので、温品公民館のような活動を全市公民館に広げていただき、誰もが命の袋をもてる状況にしていただくのが第一歩だと感じた。

福原委員

私は長束小学校で校長をしているが、長束は平成 22 年に安川が氾濫して洪水になったこともある。それを契機に現在も地域の自主防災会の方が非常に一生懸命活動してくださっている。そういった学習を子供たちも 4 年生から総合的学習の時間を使って学んでいる。ただ、その学習を進める中で、自主防災会活動をされている方ではない地域の方や保護者との防災に関する温度差を感じている。子供たちは、実は側溝に捨てるゴミが洪水の原因になるから地域でゴミを落とさないことなどを、学習を通じて気が付くが、そういった意識がなかなか広がらず、子供たちと自主防災会の方と学校の中でとどまってしまう。これをもっと保護者や他の地域住民に拡げていくと素晴らしい学習になると思うが、その軸になるのが公民館での学習会や防災フェアだと思う。そういったものを企画していただいて、子供と保護者が参加し学び返していくことができれば、地域も活性化していくし教員にとっても良い学習になると思う。公民館が地域の要になっていって、総合的な学習の時間も活用しながら、地域と学校と公民館が連携していくことが必要だと改めて感じた。

大坪委員

私も民生委員や町内会の活動をしているが、地域団体とそれ以外の地域住民との意識の温度差を感じる時がある。公民館にはその温度差を埋めるような活動をしていただければと思う。また、小さい子供のうちから防災体験を進めていただきたい。

久井委員

今後に向けてというところで、「社会的弱者」という言葉がでているが、具体的にはどのような取組を考えているのか教えてほしい。

重田温品公民館長

一人暮らしの高齢者へのフォローをどうするか、という点を防災士が主体で考えている。これは民生委員にも主体的にやっていただいているが、地域の中で防災士と民生委員に協力してもらって、個人情報保護の制約もあるが実際にどの地域にどういう人が住んでいるのかということを把握して、事前に防災士がその家に行って避難を呼びかける声掛けをしている。今後は、この取組を温品地区全体に拡大させることが課題である。

久井委員

公民館が単に学習の場を提供するだけでなく、それぞれの地域団体のハブのような形で機能することもあわせて考えながら学習と組み合わせて行っていってほしい。

(4)　その他

①　コロナ禍における公民館活動及び運営について

参考資料２に沿って説明（田渕生涯学習課長）

山川委員長

以上で全体の議事は終了したが、ここまでの全体に関してご発言いただいていない方からご感想などを頂戴できればと思うがいかがか。

上谷副委員長

温品公民館の命の袋の取組は大変素晴らしい。私の住んでいる可部地区でも防災訓練など行うが、高齢化などにより参加者は減少傾向にある。この傾向は他の地域でも同様かと思う。今後は、学区の全町内会にこの取組を発信していくことが必要かと思うが、どのように取り組むつもりか。

重田温品公民館長

今は町内会長、自主防災会長に声をかけるところから始めたところである。全ての町内会が一斉に取り組み始めることは難しいので、まずは取組を行いたいと手を挙げた町内会に対して、町内会独自の防災計画などを作成してもらう働きかけを行っている。警戒区域内だけでなく、警戒区域外の地域住民にも防災の意識を高めてもらうことができるよう、今後も活動していきたい。

田頭委員

自主防災会長として防災訓練やハザードマップの作製・配布を行ってきたが、若い人の参加が難しい状況にある。また、堤防が完備されたことにより地域住民も安心しきっているところがある。しかしながら、安心安全や防災は一番大切なことだと思うので、これからも活動を続けていきたいと考えている。

高田委員

佐伯区も山間部もあるようなエリアなので、温品公民館の命の袋の取組を普及させたいと感じた。

３　閉会

山川委員長

　長時間になったが、熱心にご意見、ご支援いだいた。終了予定時刻になったのでこれをもって本日の会議を閉会する。